

めぐみイエス・キリスト教会

2022年7月3日(日)第一主日礼拝
週報「通算第615号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌268「御国の心地す」	p. 422
【交読文】	No.21 詩篇第62篇(抜粋)	p. 895
【賛美Ⅱ】	新聖歌340「救い主イエスと」	p. 540
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.15「野に咲く花も空の鳥も」	
【聖書朗読】	使徒の働き17章22節～34節(新約p. 270下段)	
【礼拝説教】	《アレオパゴスでの証言》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

●ポイント1. 「使徒パウロの伝道方法」とは？

※第Ⅰコリント9章19節～22節「すべての人の奴隷として」(新約p.339)

9:19 私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隷になりました。

9:20 ユダヤ人にはユダヤ人のようになりました。ユダヤ人を獲得するためです。律法の下にある人たちには、(私自身は律法の下にはいませんが)、律法の下にある者のようになりました。律法の下にある人たちを獲得するためです。

9:21 律法を持たない人たちには、(私自身は神の律法を持たない者ではなく、キリストの律法を守る者ですが)、律法を持たない者のようになりました。律法を持たない人たちを獲得するためです。

9:22 弱い人たちには、弱い者になりました。弱い人たちを獲得するためです。すべての人に、すべてのものとなりました。何とかして、何人かでも救うためです。

●ポイント2. 「アレオパゴス」での証言と「知られていない神」とは？

※使徒の働き6章15節・7章1節～2節前半「ステパノの証言」(新約p.244)

6:15 最高法院で席に着いていた人々が、みなステパノに目を注ぐと、彼の顔は御使いの顔のように見えた。

7:1 大祭司は、「そのとおりなのか」と尋ねた。

7:2 するとステパノは言った。「兄弟並びに父である皆さん、聞いて下さい。」

※使徒の働き4章9節～10節「使徒シモン・ペテロの証言」(新約p.238)

4:9「私たちが今日取り調べを受けているのが、一人の病人に対する良いわざと、その人が何によって癒やされたのかということのためなら、

4:10 皆さんも、またイスラエルのすべての民も、知っていただきたい。この人が治ってあなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの名によることです。」

●ポイント3. 「アレオパゴスの裁判官ディオヌシオ」と「ダマリス」とは？

■**ディオヌシオ** しばしば用いられるギリシヤ人名で、ぶどう酒と演劇の神ディオニュソスに由来し、新約聖書に1度だけ登場するディオヌシオは、アテネのアレオパゴスの裁判官で、パウロの伝道によって回心した。彼のような有力者が回心したことは、特に人々の注意を引いたに違いない。エウセビオスは、このディオヌシオがアテネの初代監督になったという2世紀の伝承を伝えている。

■**ダマリス** パウロがアテネのアレオパゴスで説教した時、ディオヌシオと共に回心した女性。「若い雌牛」という意味。普通のギリシヤ婦人は公の集会に出席しなかったことから、外国人で、教養のある遊女の一人ではなかったかと推測される。

◎先週の礼拝メッセージの概要【知られていない神に】

《さて、ギリシャ第一の都市アテネにやって来たパウロは、町が偶像で一杯なのを見て、心に憤りを覚えたとあります。そこにあるユダヤ人の会堂にて安息日に礼拝に参加し、主イエスの十字架と復活を語ったのです。

また、アテネの門の広場において、毎日のように、当時のギリシャ二大哲学(エピクロス派とストア派)の哲学者との議論も行なったとあります。

彼らは、パウロをアレオパゴスに連れて行きました。アレオパゴスとは、五百年以上にもおよぶ歴史的な評議会で、古代民主主義都市国家アテネにおいて、刑事事件および道徳と宗教に関して、特別の裁判権を有していたのです。パウロは、議会の真ん中に立って、彼らに語りました。

「アテネの人たち。あなたがたは、あらゆる点で宗教心にあつい方々だと、私は見ております。道を通りながら、あなたがたの拝むものをよく見ていると、『知られていない神に』と刻まれた祭壇があるのを見つけました。そこで、あなたがたが知らずに拝んでいるもの、それを教えましょう。」と。

町中の偶像の中で、『知られていない神に』と刻まれた祭壇を、パウロが見つけたことは決して偶然ではなく、実は神様が、この偶像礼拝の町に、救いの道しるべを用意しておられたからです。このアレオパゴスでのパウロの証言によって、救われるべき人たちが起こされることになります。

日本の多くの人々は、パウロが存在していた時代のアテネの人々と同じように、真の神様を知りません。それゆえに、多くの物言わぬ偶像を礼拝しています。パウロのように、その御名を教える必要があるのです。

私たちは、主イエス様の証人です。証人とは、主が今も生きておられ、本当に存在するお方であることを、証しする者です。最も大切な事は、私たちの生き様であり、その姿勢です。み言葉と共に歩む人には、その証印としての聖霊が共にいて下さいます。私たちは、このお方の臨在を運ぶのです。私たちは、「知られていない神」を、知っている者なのです。》

◎お知らせ

※7月10日(日)の第二主日礼拝は、通常通り午前10時からです。板橋泉教会での第二礼拝の奉仕は、恵まれました。お祈り感謝します。